

(2) 社会科

【平成28年度「熊本県学力調査」観点別定着率】

	第1学年	第2学年
社会的事象への関心・意欲・態度	75.9	79.9
社会的な思考・判断・表現	58.4	60.4
資料活用の技能	51.9	56.4
社会的事象についての知識・理解	57.6	49.5

平成28年度の県学力調査結果からみえる社会科の課題は、大きく2点あります。

1点目は、基礎基本の定着が不十分であること、2点目は、資料をもとに社会的事象の意味や特色、関連性等について考え、表現することが不十分であることです。

基礎基本の確実な定着とともに、適切な言語活動のもと、思考力・判断力・表現力の育成をめざした授業改善をお願いします。

授業改善に向けて

現行学習指導要領の下で、社会科の学習では社会的事象に関心を持って多面的・多角的に考察し公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させること等に重点を置いて改善が目指されてきました。一方で、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり、多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることが指摘されています。また、課題を追究したり解決したりする言語活動を取り入れた授業が十分に行われていないこと等も指摘されています。

そこで、これらの課題を踏まえ次期学習指導要領改訂に向けて、社会科における教育目標は、「公民としての資質・能力」を育むことを目指し、その資質・能力の具体を3つの柱で示すことが議論されてきました。

【3つの柱】 「知識・技能」
「思考力・判断力等」
「学びに向かう力・人間性」

この3つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、課題を追究したり解決したりする言語活動の充実が求められます。社会科においては、これまでも、小学校で問題解決的な学習の充実、中学校で適切な課題を設けて行う学習の充実が求められています。そうした学習活動を充実させるための学習過程の例としては、課題把握、課題追究、課題解決の大きく3つが考えられます。また、それらを構成する活動としては、動機付けや方向付け、情報収集や考察・構想、まとめや振り返りなどの活動が考えられます。

【平成28年度中学校教育課程地区別研究協議会（社会科）概要】

平成28年度中学校教育課程地区別研究協議会（社会科）概要

現行学習指導要領の成果と課題

- 社会的事象に関心を持って多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させること等に重点を置いて、改善が目指されてきた。
- △ 主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分。
- △ 課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業が十分に行われていない。

不断の授業改善の必要性

資質・能力を育成する学習過程の在り方

三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、課題を追究したり解決したりする活動の充実が求められる。中学校社会科においては従前から、適切な課題を設けて行う学習の充実が求められており、それらの趣旨を踏襲する方向である。

学習指導要領改訂に向けて議論されていること

社会科で育成すべき資質・能力の整理（三つの柱）

- 「知識・技能」・・・社会的事象等に関する理解などを図るための知識と社会的事象等について調べとめる技能
- 「思考力・判断力・表現力等」・・・社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力や、考察したことや構想したことを説明する力、それらを基に議論する力
- 「学びに向かう力・人間性」・・・主体的に学習に取り組む態度と、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など

見方・考え方について

位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して社会的事象を見出し、比較・分類、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりして考えることを、校種の段階や分野・科目の特質を踏まえた見方・考え方で整理

地理的分野の重点指導事項

「魅力ある学習問題づくり」
【指導のポイント】

「学習問題」
「オーストラリアはどのような社会なのか考えよう。」

※「なぜ」「どのように」という言葉を使って、生徒が具体的な視点をもって追究できるようにする。

「意欲を高める学習問題」
「オーストラリアは白豪主義だったのに、なぜ多文化主義へ転換したのか。」

歴史的分野の重点指導事項

「構造化」と「焦点化」
【指導のポイント】（構造図の例）

信長や秀吉が進めた統一事業は、武士による様々な政策を行い、これにより、安定的な時代になった。身分が固定化され、いつまでも変わらない社会の基礎になった。

中世ヨーロッパではルネサンスや宗教改革によって新しい価値観が生え、大航海時代を迎え、我が国にも大きな影響を与えた。

信長は、都市・農村間の貿易を促進し、その結果、貨幣（手）入を普及し、手入を職人の工夫を立上げて、

公民的分野の重点指導事項

「関係を考察する場面設定」
【指導のポイント】

（資料1 高齢者の割合と出生率）

（資料2 介護をする人の年齢）

- ① グラフの変化や割合から特徴を読み取る。
- ② 2つの資料に関係がないか確かめる。
- ③ 「何が言えるのか」を考え、表現する。

言語活動の充実

【『言語活動の充実に関する指導事例集』の社会-6科から】

授業改善の手がかりとして、言語活動の充実をもとに、思考力・判断力・表現力等の育成を図った事例が、文部科学省ホームページの『言語活動の充実に関する指導事例集』に紹介されています。

10の実践例が掲載されていますので、授業改善へ向けて、活用をお願いします。

社会-6（歴史的分野） 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる事例

【学習活動の概要】

1 単元名	近世の日本と世界
2 単元の目標	(1) 近世から近代への転換の様子を考察し、自分の言葉で表現できるようにさせるとともに、我が国が第二次世界大戦の惨禍に至った経緯を近代全体の流れを通して理解させる。 (2) 歴史的分野の学習課題を追究するための技能を育成し、時代の転換期を学ぶことに興味を持たせる。
3 評価規準	【社会的事象への関心・意欲・態度】 ・日本の近代化の過程や大戦に至った経緯に関心を持って追究しようとしている。 【社会的な思考・判断・表現】 ・日本の近世から近代への転換の様子と第二次世界大戦に至った経緯を、世界の動きと関連させて考察している。 【資料活用の技能】 ・表やグラフ、写真、各種文書など様々な資料から、歴史的事象に関わる意味や背景を読み取っている。 【社会的事象についての知識・理解】 ・日本の近代化の様子や、二度の世界大戦の背景と経緯などを、時代の特色を考えることを通じて理解している。
4 教材	この時期の我が国は、欧米諸国のアジアへの進出など複雑な国際情勢の中で開国し、急速な近代化を進めて近代国家の仕組みを整え国力を高めていく。その後欧米諸国との関わりの中で東アジアへ進出し、やがて世界大戦の時代に突入していくこととなる。日本の近世から近代への転換の様子と第二次世界大戦に至った経緯を、「時代のまとめ」という振り返りの活動を通じて、世界の動きと関連させて考察させる。
5 主な学習活動	(1)単元の展開（全34時間）

社会	指導的分野	事例	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
P.49～	社1 地理的分野	様々な事象の地図を重ね合わせ、関係性を読み取り話し合う事例	コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう	
	社2 地理的分野	資料の読み取りに基づいて思考を深め、論理的に説明する事例	EU加盟国では、政治・経済的統合が人々の生活にどのような影響を与えているか	革命、欧米諸国の海外進出の互いの関係を理解する。(7)
	社3 地理的分野	仮説を立てて協同で課題追究し、その結果を白地図にまとめる事例	なぜオセアニアは、ヨーロッパに代わってアジアとの結び付きが強まったのか	このような点が窺いづれたのか、明治政府が目指していたのかを考えることを通じて、(7本時14/34)
	社4 歴史的分野	時代の区分やその移り変わりに気付く学習の事例	歴史のとらえ方 ～年代の表し方と時代区分を理解しよう～	
	社5 歴史的分野	討論を取り入れて時代の特色をとらえさせる事例	中世の日本	
	社6 歴史的分野	互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる事例	近代の日本と世界	
	社7 公民的分野	現代社会をとらえる概念的枠組みを活用し説明させる事例	国民の生活と政府の役割	
	社8 公民的分野	議論を通して現実社会が抱える課題について説明、論述する事例	我が国の政治について考えよう	
	社9 公民的分野	知識を活用して特色を説明し、さらに自分の考えを論述する事例	世界平和の実現を目指す国際社会と日本	
	社10 公民的分野	資料の読み取りや解釈、説明に基づいて地域の課題を探究する事例	「買い物弱者」問題を考える一持続可能な社会形成のために～	

【社会科の事例一覧】